

●地域説明会「木津川はどんな川」を3月3日京田辺市府営団地第2集会所で開催しました。集会所の周囲は開放型で、ガラス戸で掲示物を掲示することはできないので、急遽石膏板を準備してボード壁を取り付けました。これまで使用してきた施設のボードは石膏ボードが多くて、重くて搬入や搬出には大変な労力が必要で男性でないと扱いが難しいものでした。今回府営団地での場合はベニヤ板の大きさだったので、取り扱いが容易で、それほど苦勞が伴いませんでした。30枚の配置は約30分で完成しました。ポスターの張り出しも前回の終わり方にしっかり工夫がされていたので、手際良く進み10時の会場にほとんど完成できていました。開場時間になると団地全体に放送が行き渡りましたので、開催時間には皆さんがご来場下さいました。これまでと同じく山城の歴史については関心を強く持っておられるようで、最初からしっかりお読みいただきました。人気のある展示物でもあることが強く印象付けられました。これまでの会場と比べて約半分以下でもありましたので、木津川の説明部分を外しました。今回から横断幕は新品で「木津川はどんな川」の幅1mで長さが5mの横断幕を屋外のフェンスに貼りました。これまで使用してきた「NPOやましろ里山の会」(幅1m長さ10m)と並べて屋外の雰囲気もがらりと変わる張り出しを行いました。午後からは京都産業大学教授の鈴木康久氏から「木津川と舟運」について歴史的に、そして絵はがきを使ってお話をいただきました。わかりやすいお話でした。そのほかに今日は縦書きで書かれている「やましろ里山の会」と「木津川はどんな川」のタペストリーの初披露もありました。紺の下地に白抜きの文字なのではっきり読み取ることが出来ますので、会場の引き締め役として役割をしっかりと果たしてくれていました。

●木津川希少種植生調査管理業務

①2月度の植生調査が3日間の取組で伊藤近藤白木山下中村高田さん6人の取組で完了しました。24kmの全沿川を通して一度に確認することが出来て、これからの取組に大いに役立つこととなります。

②3月度に実施する除草作業であるレンリソウとオオバクサフジの生育地の除草作業を有田さん津川さんのお二人が午前9時から16時30分までの除草作業を3日連続で実行していただき、予定地のすべて予定地が完了しました。高齢者にとって、三日間の連続作業というものは大変厳しく、相当頑張っていただきました。3月5日は降雨が予想されていたので、4日の午後1時集合で、刈草の運び出しを計画しました。軽トラックに積み込むガラ入れ袋を段で積み上げるには一人作業では無理でした。それでもなんとか4個目を載せて、焼却処分が可能な場所にまでは運び出すことができました。かなり大量なものとなりました。

●木津川希少種生育調査管理業務の公募がありましたので、早速申請書を提出しました。播川理事長が申請書を17年度を参考にして申請書を作成して届け出ていただきました。17年度の作業面積は約8400㎡でしたが18年度は60%の増加面積となっています。大幅な作業面積の増加になります。管理箇所数も21カ所から27カ所にこちらも25%の増加となっています除草回数は年間2回で植生調査は毎月実施で生育調査を考えています。農園部会の皆様や植物部会の皆様のご協力を得て推進できればと思います。もちろん関心をお持ちの皆様のご協力は大歓迎です。ご一緒に調査と除草そして生育と保全を行っていきましょう。よろしく願いいたします。

●8日～9日 紀伊半島大災害復旧現場視察 夕食前に那智勝浦市の郷土の歴史と課題についてお話をいただきます。現地訪問は日足地区の浸水現場、熊野川河道掘削現場、市田川水門（自動可動式排水ポンプ）、相野谷川輪中堤、紀宝町役場訪問を予定しています。翌日には那智川土砂災害現場訪問視察を予定しています。那智勝浦市の市議員さんや国土交通省紀南河川国道事務所、和歌山県の土木事務所、紀宝町総務課から説明と案内をいただきます。翌日には時間がゆるす範囲で世界遺産の熊野古道を訪ねられたらと思っています。このスケジュールは淀川河川事務所副所長の白波瀬さんにお骨折りをいただいています。

● 地域説明「木津川はどんな川」展示会 18日(日) アスピア 一度はご参加ください 二か月にわたる連続現地説明会「木津川はどんな川」の展示会の最終回を迎えることになりました。やましろ里山の会の20年間に築いてきた発刊物の紹介と成果と資料をまとめたものでよくもここまで実行出来てきたものだと思画自賛できるものです。13名で発足して最高会員257名を記録できて、年間100回を超えるイベントを開催し会員から河川レンジャーを多数輩出し川文化と歴史を築きました。南山城地域で最も大きな展示会場であるアスピアの大ホール全展示物200点余りを掲示いたします。これまで里山の会にかかわってくださり、活動を支えていただいた皆様方のすべてご参加を強く呼びかけるものです。こうした大展示会はそう何回も開催できるものではありません。この機会にぜひお越しいただきますようお願いいたします。当日は山城地域きっての郷土歴史家である中津川敬朗先生にお越し願って解説をいただきます。ご期待ください 午後1時に解説開始と予定いたしております。入場無料です。

● 2018年度夏原グラント 活動助成金継続申請プレゼンテーション 3日 昨年に引き続き継続申請をさせていただきました。継続にあたってのプレゼンには理事長の播川さんと副理事長の大村さんが出席し、プレゼンテーションは大村さんが行いました。一部説明できない部分もありましたが、カスミサンショウウオの生息地の安全確保、里山農園と白土山の通路確保、そして教育棟の充実について助成金をお願いしました。プレゼンテーション参加団体は16団体でした。

● 3月3日 四つのイベント同時開催 すごい取り組み 3月3日は四つのイベントに主力として役員を派遣することになりました。夏原グラントへのプレゼンテーション、河川レンジャーの木津川展、木津川希少種生育調査と除草作業、「木津川はどんな川」の展示会とこれまで経験したことのない分散しての取り組みになりました。無理ではないかと危惧しましたが、やってみると苦しいところも多々ありましたが、何とかそれぞれ立派に完成させることができました。やればできるものであることを実証してくれました。困難も恐れることなく力を発揮すれば出来ました。自信が生まれた一日でした。

●河川レンジャー運営委員会 3月1日(木) くすのき苑（精華町） 現職河川レンジャー3名の実績報告続くアドバイザーと学生などとの取り組み報告が行われました。山城地域の八幡市城陽市京田辺市木津川市と井手町精華町久御山町の自治体の課長級の列席のもとで開催されました。そして四月から河川レンジャーとなって本格的に活動を開始される村上ゆいさんの決意も発表されました。運営委員長的光田重幸先生は病氣も回復されて出席され会議を進行されました。